

D. 全体討論（後半）の記録

- ・議長：奥知久(大阪市立大学)

BLSやAEDの一般への普及も大切です。

BLSで必死に繋いだバトンを将来医師になるものとして、そのバトンを受け取るものとして、ALSは必要ですね。そこで更に討論を進めていきたいということで、今からの討論の題は「学生がALSを学ぶ意義について」です。

<パネラー>

- ・十倉満(滋賀医科大学)
- ・富田晃一(慈恵大)
- ・佐藤壮司(福井大学)

<全体討論>

- ・十倉満(滋賀医科大学)

BLSの普及だけでなく、ALSだけの意義があると僕は信じています。この大会で、ALSを学ぶ意義を議題としたのは、きっと意義があるからだと思っています。BLSにはあるにしても、ALSでは意義はまだ出ていません。僕個人の意見として、BLSではなく、あえてALSが大切だと思うのです。バイスタンダーによるBLSは、救命率の向上に確かに大事です。でもBLSのWSに参加しても、あまり熱い気持ち・モチベーションはもらえませんでした。

ALSのWSに参加して、初めて熱い気持ちをもらったのです。それは、ALSが死ぬか生きるかの極限の状態に直面しているからだと思います。Asystoleなど、葛藤、家族とのやり取りなど、極限の状態があります。生きるか死ぬかのぎりぎりの瞬間で、死と向き合えることを含めた熱い気持ちは、そこから生まれていると思います。

その人の全てを背負わされた状態で初めて、熱い気持ちが生まれるのではないのでしょうか。BLSも大事ですが、BLSでは引継ぎで終わってしまいます。そこから引き継いで任せてしまうから、その人との最後の瞬間を向き会えません。そこが残念で、物足りないと思います。最後の時には、人形ではなく人と向き合っていて、死ぬか生きるかという瞬間を味わいます。そこで熱い気持ちが生まれるのです。そこがALSの意義で、最後の最後まで、その人の命と向き合います。死ぬか生きるかという極限の状態に向き合うことで、そこから還元できるエネルギーとなっていると思うのです。

- ・大岩謙介(帝京平成大学)

医学生のお考えでなく、救命士過程としてです。

自分は患者さんを受け渡した後の事は分かりません。受け渡したあとの患者さんを救ってくれるのは、医師の役目です。医師しか人の死は判断できません。自分が死を認めなければいけない役職につく人が、学生の頃からそれを考え、その先にある生死に向き合う必要があるということでALSには意義があると思います。

- ・板垣亮平(金沢医科大学)

十倉君の意見と違うわけではありませんが、はっきり言って、BLSしかり、ALSしかり、救おうという気持ちには違いはないと思います。

BLSで十倉君が物足りないっていうのを聞いていて、受け取り方ではあると思いますが、ではBLSとALSで人を救おうっていう気持ちに違いはあるのですか、という感じだと思います。ALSだからやる気が出るとか、BLSだから物足りないっていうのではなく、その人に向かう気持ちというものに皆違いはないと思います。

ただ何が違うのかということで、僕の中ではALSをやることによって薬剤が投与でき、BLS以上の事を学ぶことで、一つでも純粋に助けることが出来る命が、その可能性が広がるのならそれでいいではないか、自分が知識を増やすことで誰かが助かるのならそれで良いではないか、そういう考えの上で僕はBLSを学びさらにALSをやっています。だからBLSであろうがALSであろうが、やっている範囲が違っても、そこに熱いものを持っている気持ちは変わらないと思います。

- ・八重垣貴英(大阪医科大学)

ALSとBLSを、そんなに分けて考える必要はあるのでしょうか。ALSといっても根本的には一緒の事で、胸骨圧迫は絶え間なくやっていますよね。最終的に、学ぶ余裕、教える余裕があればALSを教えて、また教わることでBLSの根本原理を学ぶ事ができますし、AEDが何をやっているかとか、呼吸原性の違いなど色々分かります。将来ALSをやる可能性があるなら、ALSを教える意味が、余裕があるなら(医学生など)やれば良いと思います。

学生に対してうちの大学でBLSの講習会をして、その参加者さんに、ALSのWSの案内をしたら、行きたいと言っていました。だから、将来必要な人達には、ALSを教えれば良いと思いますし、したい人には教えれば良いと思います。ただ、BLSのWSの利点は、機材などの準備が楽ですし、一度にたくさんの人を教えられます。普及の面ではBLSも大事なのではないかなと思いました。

・議長

さっきから連続しているのはBLSもALSも一緒ではないかという流れがあるような印象ですね。つまりは両方やればいいのかということでしょうか。ただ、八重垣君のようにBLS単体のWSの方が実務的に簡単であるというなら、ALSをやめて、ALSに掛かっていた労力を、BLSを外に教える活動に向けたほうがいいのかというような意見も出てくるかもしれないと思うのですけれどもいかがでしょうか。ALS単体で、当然どっちも学ぶ事に意義があって、やることも大事だけでも、あえてALSを僕らが学ぶ事に、どういうメリットあるかという点ではいかがでしょうか。

・水谷友美(鳥取大学)

ALSの方が意義があると思います。BLSは誰にでも一般人にでも出来るため、たとえ間違っても、判断が自分の責任ではない、と言い切るとあれですが、本人に責任・過失は問われないのが大きな違いではないでしょうか。私がALSのWSに参加して感じたことは怖いなということです。将来医師になって、目の前に生死をさ迷っている患者さんがいるとして、自分は正しく処置できるだろうかと考えた時に、そんなに直ぐに動けるものなのかって言う風に考えました。その結果怖いなと思いました。医師になるなら、それを乗り越えて働かなければならないですし、それを考えると、学生のうちから学べること、出来ることは何でもして、学校では学ぶ事の出来ない実践というものを将来のために今から学んでいくことが、私は一番意義があることだと思っています。ALSであるというのはやはり、将来に繋げていく上で、BLSの次に繋がる、実践が出来るということで非常に大事だと思っています。

・佐藤壮司(福井大学)

麻酔科の先生方と、AHAのコースを受けました。先生方はコースのことを、半笑いで子どもの遊び、お作法にすぎないとおっしゃっていました。ある意味では至極正しいでしょうが、その真意は、お作法の段階で済ませずにもっと上を目指せ、ということだと思っています。学生がALSを学んで、何が出来るのでしょうか。ALSは、患者さんの命において、最後の砦、患者さんの生死を分ける戦いにおいて最後なんですよね。そして命のバトンです。

BLSからALSまで、どの段階においても、重さの違い・意義の違いはありません。それぞれの担当の人がそれは考えればいいと思います。

では実際の臨床のプロの人にお作法といわれるような、ALSのWSをやる、アルゴリズムを覚える事にどんな意義を感じるかということ、究極のところは、少しでも学んで、実際に現場に立ったときに、少しでも動けるようになりたい、そういう思いからだと思っています。結局人の行動を変えるのは理念で、勉強できる人と出来ない

人がいて、勉強できる人は何のために勉強しているのかというと、当然自分のキャリアの為に勉強する人もいます。自分が将来有名な医師になりたいと思う人もいます。でもそこに患者のために頑張ろうと思っている、患者のために良いお医者さんになりたいと頑張る人もいるのです。皆さまがまだと思いますが、少なくともここにいる人達は、Patient Orientedな患者のために良いお医者さんになりたいという人が多いのではないのでしょうか。そういう人々と一緒に、学生ならではの、お作法といわれるようなコースを行うのは、技術や知識を学ぶためではなく、理念や精神を学ぶためだと思います。もちろん技術も学べますが、このような技術は現場でやっていることのごく一部です。これで僕らは出来ると思って、うぬぼれては絶対にダメだと思います。今度ALSのコースが出来ると思うのなら、想定外のことやawayも含めて皆でやってみたいなと思います。

・議長

皆さん意見は尽きないと思いますがいかんせん時間がせまっております・・・
30秒くらいで何かありましたらお願いします。

・富田晃一(慈恵大)

自分なりの考えですが心停止以上に悪い状況はなく、最悪の状態だと思います。心停止をALSで治療できれば、語弊があるのを承知で言わせてもらおうと、他はどうかともなると思います。どんな軽症な患者だろう、ちょっと重めの患者だろうと、心停止にちゃんと対応できれば後はどうかともなるとするのが一つあると思います。

もう一つはALSというのは、経験の差がこれ程はっきり出ないものはないということです。これは、学生であろうと何年も医師をしているものでも、やったもの勝ちで、学生であってもALSの勉強を積み重ねている者の方が、BLSをやったことのない研修医よりも100倍使える人材です。なので経験によって差が出ないものだと思います。そういう意味からも、学生だからこそ積極的にALSを学ぶ意義があるのではないかと考えています。

・議長

これでディスカッションを終わらせていただきます。

この後市大の取り組みということで、元々は展望とかを話そうとなっていたのですが、実際そんなディスカッションの中で、例えばBLSの普及って話が出るかなと思っていましたので、1つの具体例を示してくれると思います。

ここで、特別企画「大阪市立大学のグループ、BLS普及へ向けた取り組み」を紹介しました。

E. 総括（コンセンサスに代えて）

全体の意見は、

- ・ ALSを学生のうちに身につける事自体が現在あるいは将来へ及ぼす影響
 - ・ ALSワークショップの参加、開催、運営にあたって得られる利益
- に大きく分けられた。

1、ALSを学生のうちに身につける事自体が現在あるいは将来へ及ぼす影響については

- ・ 医師になればどの科に進もうが心停止患者に遭遇する、その時に対応できるようになる
 - ・ 将来必ず必要な事なので、早くから身につけておけば、将来はより深く勉強できる
 - ・ 医師になり実際に心停止に遭遇した場合の心構えができるようになる
 - ・ 医学生としてBLSができる事を認識し、必要な場面で対応できるようになる
 - ・ 実際にBLSが必要な場面に遭遇した時、躊躇なく一步踏み出す勇気を持てる
- などがあった。

また、それと関連して

- ・ 医師になってからよりも学生の方が、心停止に対する対応を学ぶ・練習する時間があるから学生の間でやっておくべきだ
- という意見もあった。

2、ALSワークショップの参加、開催、運営にあたって得られる利益については

a) “参加” という事に関して

- ・ BLSの大切さを学生のうちから認識する事ができる
 - ・ 死と向き合い、“人を助けたい” という気持ちを再認識できる
- という、“**学生の自覚**” という部分に関わる意見や
“各地の様々な大学の志の高い学生と交流できる” という事を軸に、そこから
- ・ 勉強一般に対するモチベーションが上がる
 - ・ 価値観の違い、意見の違いを交換したり議論したりできる
 - ・ 刺激を受ける
 - ・ 視野が広がる
 - ・ 先生や先輩とのつながりが得られる
- といった項目が挙げられた。

b) “**開催・運営**” に関して

- ・ プレゼンの能力・企画力・運営力がつく
- ・ 人前で話す事になれる

- ・ パソコンのスキルが上がる
- ・ インストラクションのスキルが上がる
- ・ 人に教える練習、教える喜び、教える難しさ
などがあった。

まとめ

学生はALSを学ぶ事で、ALSを身につける事そのものが今の自分や将来の自分に大きく影響するだけでなく、ALSを身につける過程であるワークショップという場を通じて、医学生として、人として、様々な影響を受けている事が分かった。

学生ALSは、現在及び将来的なスキルの向上を目指す場であることは当然として、1人の学生として人間的な幅を広げ、潜在する様々な可能性を引き出す場であり、熱く志を同じくする仲間が様々な考えを交流し成長できる場である。

4. 特別企画① 「川崎さんからの手紙とDVD」

大阪医科大学 医学部 4学年次 富岡 淳

特別企画立案の経緯

2月24日に大阪医大で行った”BLSワークショップ”(学内学生向け)で、川崎様にDVDとお手紙を郵送してもらい、手紙の朗読、DVDの上映を行いました。その時の反響がこちらの予想以上のものであり、来るJICAMでも時間を取って全国の学生に伝えるべきではないか?という意見が強く出たため、今回のJICAMで特別企画の1つとして準備しました。

福井在住の川崎様は、お嬢様の沙織さんを16歳の若さで亡くされました。原因は、原因不明の突然の心室細動でした。以下に、今回の大会で朗読された川崎様からのメッセージを、ご本人の許可を得て、そのまま引用します。

【命のバトン】

はじめまして 川崎と申します

今日はよろしくおねがいします

私は福井に住む肩書きも何の資格もないただの主婦です 3人の子供の普通の母親です

みなさんのお母さんとちがうところは見える子供と見えない子供がいるということでしょうか

わたしには沙織という見えない子供がいます 長女沙織は生きていたら今年二十歳になりました 今日沙織からのメッセージを伝えにきました

今までなんの資格も持たない私になにができるだろうと前に進めない頃がありました

その一歩前に入る勇気がもてたのはある救命士さんからの言葉でした 「知識より意識、資格より自覚」 思いを伝えていくことに資格などいらぬよと背中をおしてくれました

この言葉のおかげでこの4年 前に進むことができましたし 今日参加させていただこうと思えました

沙織は2002年9月6日 16歳の誕生日を迎えた日 学校の体育祭のリレーに出場し 次の走者にバトンを渡したあとトラック内で意識を失い倒れました

病院に搬送されましたが意識が戻ることなく 10日の朝 16歳とたったの4日の短い生涯を閉じました リレーにでて倒れたなら どこか持病をもっていたのではないだろうかと思われるかもしれませんが 本当に80メートルくらい走ったくらいで

死んでしまったことが今でも信じられないくらいで娘は元気でしたし 健康でした
高校1年の春の健康診断では身長162センチ 体重は50キロ 内科検診 心電図共に
異常なし 骨密度110%でした 娘は小さい頃からお活発な子で小学5年生のときには
スポーツ少年団のバレーボールに入り 中学校では陸上部でした 高校ではマー
チングバンド 家で本を読むより 外でローラースケートやバトミントンなどで友
達と遊ぶことが大好きな子でした

体育祭のその日もいつもとかわらず 雨がふりそうな気配にタオルを2本もって自
転車で出かけていきました その後ろ姿が最後になるとは思いもよらないことでし
た

病院で医師から告げられたことは、原因は心臓で 症状は心室細動だということ
助かる可能性は2% 何故 心室細動が起きたかはわからない ただ 走ったあとの
ことでホルモン分泌に異常が起きたのかもしれないということでした

そして 倒れたあと 脳に酸素がいかなかった時間が長すぎたため 脳のダメージ
が大きいというものでした

沙織は心臓が心室細動を起こしたため 脳が機能を果たさなくなりすべての機能が
停止へとなっていきましたがそれだけで 医師は外科的には何も異常はないといい
不思議ですが転んだときできた顔の擦り傷がだんだん治り始めて お葬式の時には
きれいに治っていました 娘は健康なまま 旅だっていました

それまでの私にとって 死とは 年を重ね肉体がだんだん衰えやがて動かなくなっ
たときや 病気にかかり病院で精一杯の治療を受けても病気にかたないとき また
は 交通事故などの加害者があるとき それが死だと思っていましたから 私にと
って沙織は突然 消えたとしかいいようがありませんでした

それからの私は何故 何故と図書館に通い わかりもしない医学書を読んだり ネ
ットで検索を繰り返し 沙織を追い続けました

そして あるアメリカの文献が目にとまりました 心室細動にとって唯一有効なも
のは除細動器AEDだということです その時はじめてAEDというものがこの世に
すでに存在しアメリカではたくさんの命が救われているということを知りました

アメリカのシアトルでは救命率が60% 日本の救命率はわずか3%

そのころの日本では除細動器は医師しか使えませんでした がアメリカでは子供が
使って倒れた親を助けていると言うのです

沙織の主治医も AEDがあれば助かった可能性は高い と このAEDがあれば沙織
は今も青春を楽しんでいたはずです

子供が使えるものがどうして日本では医師しか使えないのだろうと 苛立ちの中
一人でも多くの人に除細動器AEDというものの存在をとにかく知ってもらおうと
HPの中で伝えることにしました

HPの中で伝えると全国の救命士さん 看護師さん そして医師たちからの応援の

声が聞けるようになりました 2004年 7月1日 やっと日本でも一版の人が使えるようになり それを機に 私は一大決心をして知事さんにメールをしました 一市民のメールが知事さんに届くはずがないと思いましたが福井の西川知事さんはじめ県の職員さんたちはしっかりメールを受け止めてくださいました

翌年 春に県の各高校 各施設に配備され 夏には福井市の小中学校 今年に公民館 図書館など福井市が管轄する施設すべてに配備されました

そのおかげで今年の春 文部科学省が調査し 都道府県別で福井県がAED設置率34%と全国1位となりました

AEDがどこよりも多く置いてあり 突然の出来事にもつながる可能性が高くなりましたが置いてあるだけで救命率はあがりません

今 もっと怖いのは 置いてあったにもかかわらず AEDを使わず目の前で命が消えていくことです 実際 他県で野球場や学校にあったにもかかわらず 救急車を待っていたため植物人間になってしまった例や亡くなった例があります

私たちは朝 行って来ますと家族を見送り また 見送られて学校に 仕事場へと出かけていきます 大切な家族は成長と共に行動範囲を広げ 実際親は子供を守ることができなくなります 夫婦もそれぞれの仕事場でなにがあっても すぐに助けをあげることができないのです 沙織のことで私はずっと親なのに何故守ってやれなかったのか悔やみ続けてきました でも 親は子供をどんなに愛していてもずっと一緒にいることはできないのです

自分の大切な家族は他人の中で成長し 他人に守られている命だと気がつきました それならば 守ってやれなかった私が沙織にしてあげられることは 他人によって守られている命をつなげていけるような社会にすることではないだろうか 安心して「いってらっしゃい」と見送れる社会にしていかなければと思いました

医師であっても 看護師であっても倒れるときは倒れます すべての職種の壁を取り除いたとき 人として 自分はなにができるのかを考えてください

そして 他人を守るということはすなわち愛する家族が守られ 自分も守られている社会になるということになると思います

一次救命BLSはそばにいる人 バイスタンダーが第一走者となり早い119 そして救急車がくるまでの6分間 すばやいAEDとたゆまぬCPRを行う心肺蘇生法のことです そして 救急車が到着し 第2走者の救命士へとつなぎます 救命士さんは気管挿管 薬剤投与などもできるようになり 病院で待つ第3走者の医師へ 医師は高度な医療技術によって社会復帰へとつないでいくことができます

命のバトンとは命をつなげようという願いです

しかし AEDがあれば全ていい結果になるとは限りません 9月福井において 陸上部の男子高校生が練習中に倒れ そばにいた先生たちがすばやいAEDたゆまぬCPRですばらしい救命リレーがありましたが残念なことに病院で亡くなりました どん

なに完璧な救命リレーであってもつながらない命もあります 人に生き死には不公平であり不条理です 人の生き死には人の手の届かない宇宙のはかりごとです しかしそうであったとしても“何をしても無駄だ”となにもしなくていいわけがなく大切なことは最後の最後まであきらめない「精一杯の思いと愛」だと思います そしてそこに思いやりと愛があったのなら残されたものは少しは癒されると思います AEDは単なる器機ですが使われなかったら意味がありません そして AEDという器機は教えてくれることがたくさんあります 私たちの死亡率は100%ですね そして自然界の動物は倒れたらそれが寿命です

しかし、私たち人間には他の動物にはない知能があり倒れてもどうしたら再び生きることができるかを学ぶことができます それは一度死んだものは2度会うことができなくなるからこそ もう一度 現世でこの時を「一緒に生きて生きたい」という願いが今の医学を進歩させてきました しかし どんなに医学が進歩しても亡くなったものは2度と帰ってはきません どんなに優秀な医者であっても 救命士であっても止まった命はもどせないのです だからこそ 倒れたとき 次の走者に命のバトンを渡せるように自分たちができることを是非 覚えてください

あなたがもし倒れ 薄れいく意識の中で周りの人たちがなにもしてくれなかったらどうでしょう「ほんの少しの勇気と愛」はきっと家族 その人の人生を大きく変えることができます

私たちの命はたかが80年 地球の瞬きだといわれます 生きているといろんなことがあります 生きていたくても生きられなかった命があることを知ってください

これから一枚のDVDをごらんください 私の思いを受け取ってくださった救命士さんがたくさんの人に命のバトンが渡るようにと作っていただきました

今日はみなさんに出会えたことに感謝し みなさんが明日も元気に輝いていけますように

ありがとうございました

【最後に】～JICAMを終えて 川崎さんからのメッセージです～

日本学生ALS大会に参加させていただき本当にありがとうございました。大阪医科大学の富岡さんにお誘いを受け、拙い手紙とDVD「命のバトン」での参加をさせていただきました。会場にはいけませんでした富岡さんからみなさんの笑顔の集合写真が届き、とても感激しました。100名近くの日本各地から集まった医療をめざすみなさんの熱い心と力が伝わってきたからです。

そして、たくさんの学生さんからの応援メールが届きました。ともすればALSの陰にかくれてしまいそうなBLSに対して、原点に立ち戻っていただけたのではないかと思います。

医療や救命に対してまったくの素人の私ですが、娘の命を思い、病院でどれほど高

度な医療体制が整っていたとしても現場での数秒が命を左右したことを知ったとき、恥をかくことを承知の上で救命の重要性を伝えていくことをライフワークにすることを決めました。そして、HPを立ち上げたことでたくさんの方に沙織のことを知ってもらいきっかけになりました。

今回、大会へのお誘いを受けましたが実は、医学生さんたちがこのような会を重ね、切磋琢磨されていることは知りませんでした。熱心に語りあい、勉強しあう姿勢はきっと沙織のようにつながるはずの命が2度と同じ悲しみにならないような社会になってくれると思いました。

そして大会において、命のバトンは確実に広まってくれたと思います。

この命のバトンをぜひ、一般の方にも渡して行ってほしいと思っています。BLSが特別なことではなく、人として当たり前であり、そばにいる人が倒れたときすぐに周りにいる人たちで救命チームができるような社会になってほしいと願っています。これからも命のバトンがもっともっと全国に広まりますように節に願っています。

今回の日本学生ALS大会が無事終了されたことは、企画運営された関係者の方々のご尽力とそして、それを支えた全国の学生さんの熱い心だと思っています。

これからも、繋がる命 救える命のためによりしくおねがいます。

本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

5. 特別企画②「大阪市立大学BLS普及への取り組み」

大阪市立大学 医学部 4学年次 田中 寛大
大阪市立大学Life Support Club

活動の現状と展望

はじめに

ALSを学ぶ学生のWSに参加して一体どのようなものを獲たか、現在に至るまでにどのような経過を経てきたか、WSに参加した時に得たものをどう活かしているか、などを具体的に示すことが目的の企画であった。

活動の経緯と現状

現在、大阪市立大学Life Support Clubは『医学部1年生を対象とした心肺蘇生法講習会』、『学部生を対象にしたBLSコース』、『付属病院職員に対する心肺蘇生法講習会』を活動の3柱としている。

これだけの活動を行うに至る切っ掛けは、学生が主催するALSのWSに参加したことであった。このWSに参加することで、「人の命を救う熱い想い」を学んだからである。

この熱い想いが、次のWSにインストとして参加する力となった。そこでは、熱い想いを得るだけではなく、伝える立場にたつたとき、伝えることの大切さ、伝えることの喜びに気付いた。まさに、医学部学生として、何か自分を役立てることがあるのではないか、との想いに到達した瞬間でもあった。

現在、心停止の蘇生率はシアトルの30%台がトップであるの対して、日本では5%台に過ぎない。この違いは、救命の連鎖に示されている、迅速な通報、迅速な心肺蘇生、迅速な除細動、二次救命処置のうち、はじめの3つが医療従事者だけではなく、バイスタンダーとなった市民によるBLSのレベルの違い、ということである。

一人でも多くの命を救いたい。その為には、見知らぬ他人であっても、その命を救い、守ることが出来る温かい社会であって欲しい、そのような想いからこの活動を行うようになった。

展望

今後の展望としては、大学付属病院職員への心肺蘇生講習会、そして阿倍野区民、更には全国の市民へと活動が広がっていけば、と考えている。その為にも、大阪市立大学Life Support Clubは、阿倍野区の蘇生率を1%でも上げたいとBLSの普及という具体的な形で活動している。

おわりに

滋賀医科大学 医学部 4学年次 十倉 満

本大会には日本各地から医療を学ぶ約100人の学生が神戸に集うという非常に大きな大会となりました。本大会を振り返ってみると、各地の活動状況を知ることができ、相互の理解を深め刺激しあい、交流を深めることができたといえます。そして、この大会のテーマである学生ALSを考えるという点においては、非常に有意義な議論がかわされました。特に、ALSを学ぶ重要性、そしてあえてALSを学生が学ぶことの意義・価値が深く議論されました。そのなかから命を救うということは共通点であるという意見も出されました。また学生がALSを学ぶということは学ぶ学生にとって、死か生かのぎりぎりに挑むことにより、大きな経験となりエネルギーを生み出すという点がALSの意義であるという意見もだされました。コンセンサスとしては1つのものは出すことができなかつたのですが、いつもとは違った視点においてALSを考えられてよかったという意見が多く聞かれ、参加者個々人に大きなエネルギーを生み出す会になったことは確かなようです。今後第2回が開かれると思いますが、この全国から集まったネットワークを生かして、これからさまざまな活動につながっていく事を確信しています。

参考資料1 アンケート集計結果

滋賀医科大学 医学部 4学年次 十倉 満

A、意見

第1回ALS大会のよかった点

- 全国から集まれたこと。第一線で活躍しておられる先生方の声を聞くことができたこと
- 様々な大学の人たちと色々な意見を交換できたこと（未経験者）
- はじめの紙に貼り付けるまとめ方よかったと思うよ。そもそもこういう企画を持ってきて、多くの人で意見交換ができるのはすごい良かったです
- 周りの人の積極性・熱心さを目の当たりにすることができて、自分も感化されたいような気がした。日本に散らばる医学部の人々に会えたことでころもち視界が広がったような気がした（未経験者）
- 学生ALSについて考えることができたこと
- 関東のWSを垣間見ることができたこと
- 関東のみんなと仲良くなれたこと
- 今後に繋がる出会いと想いが見つかったこと
- WSには今まで3回参加していましたが、今回のようにALSについて考えるという機会は初めてで、自分の中でのALSへの考え方が深まりました。また、関東の学生と会えたことや、他大学のWSの内容や展望を知ることができ、今後のWSの参加や運営に対していい刺激をもらえました
- 今まで交流したことのない関東の人たちと交流できたこと、そして、ALSについてみんなの思いが聞けたこと
- みんなが集まった！原点を見つめなおせた（助けたい！）全国の熱いやつらと知り合えた！
- 考える場としてはよい機会だった
- 個々が意見をいいやすい雰囲気だった
- さまざまなWSの歴史、状況、展望の情報が共有でき、次に何かやろうとする時に協力しやすくなりよかった
- みんなの考え方が少しわかった。方向性が似ている
- まず集まれたこと、それが一番。いずれは世界大会です
- テーマを1つに絞ったことが良かったと思います。ただもっと違うテーマもあるのかなあという気もします。ブースわけしてわいわいするのが楽しかったです。「命のバトン」でまじめになることも必要。各大学からの紹介が勉強になりました
- 熱いものが感じられた
- たくさんの方が参加されて、コメディカルの学生さんもたくさん参加されたのが印象的

でした

- みんな集合できたこと
- KJ法を使って、みんな色々な意見を出すことができ自分も勉強することができた
- 全国の学生を集めたのはすごい
- 地域ごとの特色、考え方が分かってよかった
- 意義を考えることは見つめなおし、初心にかえるいい機会だった

第1回学生ALS大会で改善すべきこと

- いつものことながら、時間がつめて計画してあって、ちょっと現実的ではない気がします。気迫は歓迎しますが
- ALSの意義について⇒自分としても執行部の開催意図を組みかねていて、とんでもない方向にもって行ってしまったけども。すまん。⇒多少変かもしれないけど十倉や寛大・富岡の意見（つまり執行部）を利用してスムーズにやりたい議論にもっていった方がいいかなあ。一つの意見として聞いてください。ブース討論以外では大学ごとの配置にしてみてもどうでしょうか？⇒それぞれのWSではもとより議論を重ねて方針を決めているはずなので⇒そういう意見がポロっとでやすいのでは？つまり小声でA:『お前この間言ってたことを言えよ』B:『えー』A:『チャンスやって』B:『そうやな』⇒Bが発言とか
- 自己紹介する時間がなくていきなり話し合いになったので、誰が誰なのかがいまいちよくわからないまま進んでしまっていて打ち解けにくかった（未経験者）
- 事前にもう少し何をするのかみんなが把握していてもよかったかも
- ブース長・サブブース長の打ち合わせももう少しして、進行の方針も決めておきたかったかも
- せっかくの素敵なプレゼンやデモだったので、簡単にまとめた冊子が欲しかった
- 初めての人はきっと実感しにくかったと思うので、対象者をどうするかで内容も変わってくると思う。今回はどちらかという経験者向け。例えば初めての人には普段のWSのアイスブレイキングを体験してもらおうとか、WSの様子をビデオを流すとか、もう少し雰囲気分からないと今回のような話し合いには参加しにくかったと思う。ある程度制限を設けるか、それを承知で参加してもらおうか、内容を工夫するか・・・
- ひとグループあたりの人数をもう少し減らしてもいいと思います。私のグループはテーブルを囲んだとき、一部二列になっていました。また、時間が短くなかなか意見が言えませんでした。難しいとは思いますが、グループ内での討論時間をもう少しとってほしいと思います

- テーマがALSに限られてしまったので、ALSとBLSの対比みたいになってしまったところが残念でした。あえて、ALSとしなくても、BLS・ALSWSを行う意義でもよかったのではないかと考えます
- もっと議論できればよかった
- グループディスカッションの時にもう少し方向性を作ったほうがいいのかも。グループの進行役がもう少し引っ張るなど
- もっと時間がほしい。もっと話したい
- 全員の名簿が欲しかったです。ブース内での自己紹介があればよかった
- 関西と関東で連絡がバラバラだった。メーリスをもっと早めにつくれば良かったかも
- ブースごとのアイスブレイキングは絶対必要！
- お時間厳しかったですね。お疲れ様です
- 自己紹介の時間がほしい
- ディスカッションの時間をながくしてほしかった
- もう少しの呼びかけをしっかりとすればもっと全国的になったともう

当日プログラムのうち、デモについてご意見・感想をお書きください

- 日ごろの成果が現れていて、それぞれの特徴があって良かったと思います
- みんな、カッコよかった！！（未経験者）
- 関西もう少し端的にやりましょう。関東のはかなり興味湧きました
- なんかよくわからないままとりあえず漠然とみるしかできなかったけれど、感心した。ALSのコースに参加したらこういうことが実際にできるようになるのだと具体的に解ってかってよかった（未経験者）
- 経験者からすると、関西のデモはいつもの通りでよくできていたし、初めて見る関東のデモは新鮮で、もっと見たかったし、具体的にWSの内容をもっと知りたいと思ったが、未経験者にとったらあつという間で、何が起きているんだろう？という感じではなかったかとちょっと不安。もう少し解説があってもよかったかもしれない
- カメラでスクリーンに映し出していたので、一番後ろでもよく見え、とてもよかったです
- 関西のデモも関東のデモも質が高くて良かったです。勉強になりました
- デモ良かったですそのみです。個人的には関東のデモもっとみたかったですね～
- 迫真の演技だが胸骨圧迫の強さがもう少しあったほうがよいと思う
- G o o d
- 関東のを初めてみたけど、広がりがあるなと感じた。医者役だけでなく、いろいろなことを考えられそう

- ちょっと劇になってしまいがち
- 関西よかった
- うまい
- 関東のPatient Assessment を初めてみたが、面白いと思った。実際の現場ではCPAよりもpatient assessmentを使える場面の法が多いと思う
- 声がおおき方がベター

当日プログラムのうち討論について、ご意見・感想をお書きください

- 討論というか、意見をまとめて分類していくというのはなかなか面白い試みでした。またやってほしいです
- 班の中で話し合われていたことと、同じ班の人が前に立って発表していたことの中身を比べて、一見達者にしゃべっているように見える人でも人前でのアドリブな発表は緊張するんだなあということがよく分かり、安心した（未経験者）
- みんなのそれぞれの想いが聞けてよかった
グループ討論に関してはとにかく時間がなかった！もっとじっくり話し合いたかったけど、発表を聞いてみると意外とみんな意見が出し合えていて感心。要は進行の力量だった・・・。反省
後半も前半の討論を続けたのは良かったし、充実していたけれど、もう少し、WSの問題点や今後どうしていったらいいのかも話し合いたかった
- 途中で討論の議題が変更になったけど、内容はとてもよかったと思いました。また、手紙の朗読は胸にくるものがありました。自分がALSを学ぼうと思った原点を思い出しました
- 始めの討論ではみんな意見を出しあい、グループ分けをしたのが面白かったです。もう少し時間が長くとればもっと討論が盛り上がったと思います
- positiveな意見が多すぎた。若干反対意見を出すのに勇気がいりそうな空気ではありませんでした。討論の時間が短かった。大会ごとにテーマは一つでもいいんじゃないかな？
- 有意義だったがもっといろんな人の意見を吸い上げられる方式にしたほうがよいと思う
- グループでだらだらディスカッションもしたかった。いきなり全体はなかなか難しい
- 僕がWSにあまり参加してなかったり・・・とかも影響したからかもしれないけど
- 一人一人の違いだが面白い
- 全体討論面白かったです
- 聞き続けると疲れる
- 十倉さんが何のコンセンサスが欲しかったのか知らんが、大切なコンセンサスは得られていると思う

- 自分も発言したかったができなくて残念だった。自分は医学生で救急現場に立つことが将来ある。そのときに何もできない自分が嫌でそのときのためにできることをしたい。という気持ちで勉強させていただけたと思った
- どれも間違っていないし、どれもいい意見だった。自分の意見を再認識できた

当日プログラムの、その他について、ご意見・感想をお書きください

- 「命のバトン」の手紙とDVD、あれは本当に良かったです！！感動しました。自己満足に終わらずに、もっと自分からできることを模索していかないといけないと思いました
- どの意見も共感できたけど、ちゃんと自分の意見をはっきりさせないといけないと思った（未経験者）
- 学生の手技を維持するにはある程度厳しいチェック機構が必要。ただ、どうしてもnegativeが入るので『デモをやってもらう』ということを目指にするとやりやすい。
⇒若い子にどんどんデモをやらせましょう
- やっぱ大学代表者討論会もやったら面白いんじゃないかな？主催者側の想いを汲み取れなくてゴメンなさい。もっと上手に方向付けしたかったです。ホンマゴメン。ビデオメッセージの後に余計な発言はさんでスママセンでした。『少しでも皆に広げるという意見を』って言うのもこの大会の目標かなと思ってつい口はさみました。←寛大に気づかったこともありやけど（笑）準備お疲れ様でした。少し休んでから14回関西WSに向けて動いてください。分からないことがあったら聞いてください。最近ぜんぜん協力できていないので力になれるか分かりませんが最大限努力します
- 各地のワークショップ紹介のときに、それぞれの色が出ていてみてとても面白かったです
- 短い期間で初めての試みを見事やり遂げた幹部のみんなには脱帽です。ありがとう。今後この第1回をどう生かし、どうつなげていくかが本当のスタートだよね。きっとこれが大きなきっかけとなって、ますます全国の学生ALS-WSが発展していくと 思し、自分もその一員として関わり続けていきたいと心から思った
- 第一回にしては本当にスムーズに運営されていたと思います。全国の今後のWSの活性化に繋がる内容だったと思います
- ほんとよかった！
- ALSとBLSを対立軸にする考えはおかしいと思う
- 紹介より議論の場にすべき
- 少し意識が足りなかったかも、反省
- 短い時間だったが、ALSの意義を考えられて良かった。おそらくみんなもずっと、こ

ころの中でぐちゃぐちゃしてたと思います。少しはすっきりしたんじゃないかと思えます。だんだん方向性がでてき、またいろいろな考えも出てくると思えます。このような場を用意していただいて本当にありがとうございました

- ALSだけでは救えない
- 現場での問題点、課題、学生ALSと現場のギャップについての企画はどうか？

B、集計

第1回学生ALS大会に参加してよかったですか？

全 18票のうち

大変良かった 12票 (未経験者 1票)

良かった 6票 (未経験者 1票)

まあまあ 0票

イマイチ 0票

無回答 0票

第2回学生ALS大会が開催されたら、参加したいですか？

全 18票のうち

ぜひ参加 14票 (未経験者 1票)

暇ならいく 3票 (未経験者 1票)

もういいかな 0票

無回答 1票

自由記載欄へのコメント

卒業しても行ってもいいですか？

来る前はJICAMをやる意義が見えなくて楽しそうではないと思っていたが、楽しかったです。

参考資料2 大会記録写真

撮影 大阪医科大学 宇高千恵

